

私の  
仲間  
komachi's  
point

右/技術研究所の谷垣所長(左)と、岩本住環境グループ長(右)。  
左/打ち合わせスペースで職員に風について説明することもある。

「当時はどんな職種でもいいからゼネコンに入社したいと思っただけで就職活動をしていました。そんな時、三井建設(現三井住友建設)の面接で『研究職に興味はないか』と聞かれたんで

「構造解析を専攻していた作田は自然とゼネコンで働くことを意識した。しかし、作田が就職活動をしてきた二〇〇二年当時は、女性を積極的に採用する企業は少なかった。」

「入学当時、大学の同級生たちは、意匠設計や建築計画に関心が強くて、構造設計をやりたいという人は少なかったですね。私は、新入生の頃から卒業まで構造一筋。他の分野を専攻することは考えませんでした。」

「震災の記憶はその後も褪せることなく、大学進学の時も迷わず建築学科を志望した。」

「丈夫そうなコンクリートのビルが倒れ、高速道路も壊れる。火に包まれていく街の姿を見て、人生で初めて建築を意識したんです。大地震にも耐え、人の生命を守る建物をつくりたい。ニュースを見ながらそんな気持ちが沸いてきました。」

「丈夫そうなコンクリートのビルが倒れ、高速道路も壊れる。火に包まれていく街の姿を見て、人生で初めて建築を意識したんです。大地震にも耐え、人の生命を守る建物をつくりたい。ニュースを見ながらそんな気持ちが沸いてきました。」

### 阪神・淡路大震災をきっかけに 構造の道へ

「二言目でいえば、風に対する建物の安全性や快適性を向上させることが私の仕事です。大学では風について学ぶことが少なかったのですが、入社当時は専門用語がほとんど分かりませんでした。上司とも技術について対等に話せないことが悔しくて悔しくて。毎日必死に勉強していました。」

### ゼロからのスタート

「二言目になると上司の補佐だけでなく、設計部との打ち合わせにも出るようになりました。そのうち社内『会社で二番目に風が分かる人なんだよ』と言われるようになり、そのことがプレッシャーでもあり、その反面自分の専門家

「二言目になると上司の補佐だけでなく、設計部との打ち合わせにも出るようになりました。そのうち社内『会社で二番目に風が分かる人なんだよ』と言われるようになり、そのことがプレッシャーでもあり、その反面自分の専門家

輝け!

けんせつ小町

# 主任研究員

作田美知子

三井住友建設(株)技術本部  
技術研究所 住環境グループ



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。

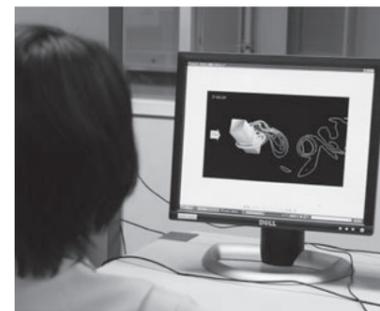


ゼネコン(総合建設業)には、新しい技術を開発し、現場や設計部を支える研究員がいる。今号では、2002年の入社以来、「風」が建物に与える影響について研究を続け、低層から高層まで様々なビルをつくる際に技術支援を行ってきた「風のスペシャリスト」を紹介する。





風洞実験の様子。植栽を置く場所によって建物周辺の風環境が変わるため、何十回も試行錯誤を重ねながら実験を進める。



私の  
職場  
komachi's  
point

右/千葉県流山市にある技術研究所。  
左/建物周辺の風の流れを検討するコンピュータシミュレーション。

## 「建物を俯瞰し、設計、施工を影で支える仕事」

としての意識を高めるきっかけにもなりました」  
経験も知識も豊富な先輩を相手に技術の説明をすることに戸惑いはあったが、周囲から頼られることでやりがいを感じ始め、それが作田の原動力になっていった。

### 技術開発と技術支援の両立

入社三年目の作田は、技術開発に一メンバーとして関わったり、プロジェクトで技術支援を



風洞実験に使う建物の模型には孔が開いていて、チューブが繋がっている。このチューブに繋がれたセンサーで風の圧力を測定、分析するという。

するだけでなく、技術開発テーマを自分で決めたいと考えるようになった。次年度のテーマを決める時期、作田は思い切って上司に自分のやりたいテーマを提案した。

「テーマを考える時期の打ち合わせでは、毎回上司にやってみたいことを話してました。でも、上司にはなかなか認めてもらえませんでしたね」

その後、低層の建物から超高層ビル、強風にさらされる湾岸の建物など様々なプロジェクトに携わり、経験を積み知識を深めていった。そして、ついに作田の提案したテーマが採用された。

「テーマが通った時は、『やっと認められた！』と感じてとても嬉しかったです。でも、技術開発は答えが見えるものではなく、メンバーに協力してもらいながら、試行錯誤の繰返しでした。それに加えて多忙な業務の合間を縫って技術開発を進めるということが考えていたよりも大変だったんです」

設計部や現場から絶えず技術支援の問い合わせや依頼が来るため、技術開発にあてる時間配分が難しい。

「技術開発を通して、いかに時間をつくるかを考えるようになりました。定型的な業務をどれだけ速くこなすか、週単位のスケジュールを立てて、その日にやることとやる時間を一目で分かるようにしました」

技術開発をもっとやりたいという熱い思いが作田を自発的に動かした。

### 「風のスペシャリスト」へ

今年で入社一五年目の作田は、技術開発の成果を社内外で論文発表するなど実績を残している。また、社内でも最も風に関する知識があることから今や「風のスペシャリスト」と呼ばれている。「技術開発は、自分の考えが、広く色々な建物に反映されます。一言に重みがあり責任が伴いますが、その分やりがいや嬉しさもあります」

技術開発と技術支援の両方で活躍し、「風については作田に聞け」と言われるようになってい

### komachi MEMO

「わからないことは、まだまだあります。社内では上の立場になったので、学会で教授にお話を伺ったり、そこで知り合った方々と情報交換をしたりして、知識を増やすように心掛けています。社外の人との交流は刺激的で楽しいですね」



「作田は勉強熱心で本当に感心します。分からないことは中途半端にしない性分なので、頼りになるしっかり者です」(岩本グループ長)

った今、作田は社内ではなくてはならない存在となった。そんな作田は、今後についてこう語る。「チャンスがあれば何でも挑戦したいという想いで仕事をしてきました。これからは若い子たちにも活躍してほしいので、今まで得た知識を後輩に教えていきたいです」

後輩を指導する立場になり、自分だけでなくグループ全体を意識するようになった作田は教育にも尽力したいと言う。

「男女関係なく第一線で働き続けるのは大変なこと。今はまだ研究職の女性は少ないですが、女性が活躍できる場面はたくさんあります。入社した頃、社内は男性ばかりでしたが、この十年で女性が増えて会社の雰囲気も変わってきました。現在は女性社員の意見交換会の企画にも携わっていますが、男女問わず働きやすい環境を目指したいですね」

女性の働きやすい環境づくりにも励む作田は、会社に新しい「風」を吹き込もうともしている。

#### profile

さくた・みちこ◎1980(昭和55)年、千葉県生まれ。建築学科を卒業後、2002年4月に三井建設(現三井住友建設)入社。住環境グループに配属され、風の分野の担当となる。風洞実験を行い、風が建物に与える影響などの研究をしている。2015年3月より女性活躍推進業務を兼任し、現在に至る。